



施工の基準工程 2015

ステップ1 施工における注意事項を良くお読み下さい。

ステップ2 スクリーンの準備

スクリーンを広げて、番号と寸法を確認し、クリップ、ビス、アンカー、キリ、アンカー打ち込みソケットやビット等の金具、取り付け工具が揃っているかを確認する。

ステップ3 張り方(外張り/内張り)を確認し、基準の角のアンカーを設置上下留めの場合:スクリーンの左上と右上のクリップを仮止め(4つのビス)する。引張ってクリップ中央の寸法を計る。上下、左右のバランスを確認しながらこの寸法で左上と右上のアンカー位置にマークして、アンカーを設置する。

アンカー設置方法については「施工における注意事項」を参照して下さい。キリの径を確認し、またメスアンカーの場合は縁取りをしないとコンクリートが割れる恐れがありますのでご注意ください。アンカーを打ち込む前に粉塵を完全に除去して下さい。下地が弱いと感じる時はエポキシ樹脂等を使用して下さい。

左右張りも同じ要領で上角と下角のアンカー位置を決めて設置する。

ステップ4 残りのアンカーを設置する

角のアンカー間に墨線をつける。

強度計算表に従って、希望の強度に応じたアンカー間隔(「スクリーン発注の手順」参照)で墨線上に印をし、アンカーを設置する。反対側のスクリーンの角にもクリップを仮止めし、同様にアンカーを設置する。残りの短い2辺の補強側にもスクリーンのはためきを抑えるアンカーが必要ですので、墨線をつけ、アンカーを設置する。補強アンカーの間隔はスクリーンの張り方、現場の状況やスクリーンのサイズによって違います。300mm-1000mm間隔が目安となります。なお、4辺留めや内張りの場合は、補強面も徹底的に留めるべきです。

ステップ5 スクリーンをクリップに挟みながらクリップのビス留めをする残りのクリップをアンカーに仮留めする。それからスクリーンを角のクリップから張る。片側からスクリーンをクリップに挟みビスで仮留めしていく(4ビス)。反対側まで達したらしわの調整をする。残りも同様です。上下の場合は、下からクリップを止めると調整しやすいです。

このように進めると、しわがなく、綺麗に張ることが出来ます。しわ・たわみなどが生じる場合はクリップを外してはめ直します。最後にスクリーン全体の張り具合を確認し、最終のビス留め(8本)をします。

注:スクリーンは無理にきつく張る必要はありません。

ステップ6 すきまを埋める

メスアンカーはさび止め加工でステンレスではないので、周囲から水の浸入を防ぐためにモルタル、シーラント剤等を使用し隙間を完全に埋めれば終了です。

また、スクリーンを張っていない時は、下記の画像のように必ず標準付属のゴ

ム付きステンレスワッシャー(小)、あるいは別売のゴム付きステンレスワッシャー(大)などを使用して下さい。これはアンカー内の腐食を防ぎます。





その他の注意事項

3点留めの場合の注意点

ベランダなどで上、左右の3点留めをする場合は、アンカー間隔計算の基準となるスパンは短い辺ではなく、長い辺になります。つまり、通常なら上下張りになるスクリーンを3点張りにする場合は、強度計算上のスパンは短い方の高さではなく、長い方の幅になります。

例えば、アストロフレックスの場合、強度計算上スクリーンの最大のスパンは5486mmで、アストロガードは4500mmになります。その場合のアンカー間隔は127 - 150mmとなりますので、ご注意ください。

内張り (90°のクリップ)

90°のクリップは外向き、内向きのどちらでも使用可能です。

90°のクリップは標準の外張りクリップと比べて強風による振動の影響を受けやすいので、フラットワッシャー (あるいはゴム付きステンレスワッシャー (大))+ スプリングワッシャーを使ってください。これはスクリーンの振動によりボルトが緩む事を予防します。

90°のクリップを利用する場合は計算上では外張り同様の強度値となりますが、弊社の経験上、次のことをご注意下さい。

* 強度計算上のアンカー間隔に従わない場合は強い台風ではクリップの足の部分が割れる場合がありますので、強度に余裕をもった施工をしてください。

* 内張りの場合、あるいはベランダや外廊下等で外に向かって内側の壁にオーバーラップを取って張る場合は補強辺のアンカーが非常に重要になります。外張りの場合はスクリーンのはためきを抑える程度で良いですが、内張り、あるいは

は内側の壁にオーバーラップを取る場合はより強固に補強面 (短い辺) にアンカーを留める必要があります。現場の条件によって変わりますがこういう場合は原則として4辺留めとし、全面均等のアンカー間隔にして下さい。また必ずフラットワッシャーとスプリングワッシャーを使用して下さい。

強度計算について

強度計算表に示すアンカー間隔は十分な安全係数を含んでおります。示している間隔は目安となりますが、条件によっては調整することも可能です。実際のアンカー間隔は現場の責任者がその現場の状況に応じて決定して下さい。

- * ゴム付きワッシャー (大)
- * フラットワッシャー
- * スプリングワッシャー